

## 兄弟の仲直り 龍

### 梗概

まあ、はっきり場所はわからないんですけど、ムルチグムイという、まあ、大きなため池みたいな、川に沿った、ため池があったそうです。そこに竜が住んでいたという話。その竜の話は、真実の兄弟愛ということから始まりますけども。ある一家に兄弟が住んでいてね、非常に仲の悪い兄弟だったそうですよ。で、兄さんは、非常に働きもので、一生懸命、毎日コツコツ働いて百姓をしとったそうですね。そんで、弟は各地をあっちこっち回る放浪者で、手におえない中途半端な放浪者だったそうですよ。で、それが、ある日、弟もやっぱり、兄さんのこの真実な働きぶりに、もうなんかひかされてね、「これじゃあいけないねえ、世のために、家庭のために一生懸命働いているのに、自分はこういうふうにして、いつまでも放浪者の生活をするわけにはいかない。」ということで、まあいちおう、ああ気を引きしめて、弟も兄の真似をして農業を初めたらしんです。そんで、そのムルチグムイという池のわきにね、畑をかまえて、耕して、コーリャンを植えとったそうです。トーンチン〔とうもろこし〕というね。それで、「よくまあ、一生懸命汗を流して働いたものだなあ。もう、おかげでコーリャンも実るんだなあ。そのように、一生懸命百姓にがんばらなくっちゃあいけないな。」ということで、まあ、一生懸命やっとならしいんです。そして、コーリャンを植えて、それが生長して実がついたころのある闇の夜に、その弟は、コーリャン畑に行ってみて、まあ、いわゆる監視というか、回ってみたらしい。すると、何か大男が、このコーリャンの実りに目がくれて、畑を荒すような傾向だったらしいんだよ。ほで、「これはたいへんだ。」ということで、まあ、その晩は帰ってきて。またあくる日行ってみたら、多くのコーリャンが荒されてて、もう実がちぎられてね、「もう、こりゃたいへんだ。これもう泥棒が来たんかなあ。盗人（ぬすどろ）が来て、こういうふうにしぎるんかな。」ということで、また、その次の晩に行ったらしいんですよ。で、晩に行ったら、やっぱりまた、やはり前日と同じように。コーリャン畑の、この実を一生懸命ちぎっておるらしいんだよ。「こいつはもう手におえないから、もうしまつがつかないから、もうぶってやろう。」ということで、まあ家から、やっぱりカマなんかナタなんか持って行ったんでしょうね。そいで、闇の夜だから、もう無我夢中で、もう傷つけて、あもう何か、首を切ったようなことで、もう傷つけたらしいんですよ。合図してからやるのがたてまえだけど、無我夢中で、まあ、興奮したもんだから、突然でもう、こう傷つけたらしいんですよ。ほで、「しまった。これもういかに盗人だっても、人間に違いないが、もう人

間一人、ぼくは殺してしまったねえ。これはたいへんだ。どうしようか。」と、しまつに困って、じっと考えた所、「これは人さまにも、他人さまにもいえなし、打ち明けていけないね。普段は仲の悪い兄弟だったけども、ぜひこれは、血のつながった兄さんにしか話せない。このことを兄さんに話して、これをしまつする方法は兄さんと相談しよう。」ということで、兄さんの所に、その晩、すぐ行ったんですよ。行ったら兄も、「そうか、おまえはもう、いかにまあ突然の興奮でも、人さま殺すなんて、これはたいへんだ。もうどうしようか。」ということで、もうこれは思案にくれてね、兄弟は、いろいろ話をしたもんだという話ですけどね。それで、「兄さんも、ぜひいっしょに行ってくれ。」ということで、弟のもうこのさそいに甘えてね、まあ行ったらいいんですよ。で行って調べてみたら、まあ、こわごわ何か明りをともしてたんでしょう。すると、人間じゃなくて、これは竜だったんだって。うん。この竜が、この池(くむい)から、ため池から出てね、コーリャン畑を荒しとったそうです。それで、「ああ、これはよかった。まあ人間じゃない。」ということでね、その竜は、その池にほうり込んだそうですよ。兄弟二人でひきずってね、ほうり込んだんだって。で、まあいかに、普段は仲の悪い兄弟でも、いざという場合には、土壇場になれば、もう血のつながった兄弟にしか話せないことで、弟も反省して、それから、兄弟の仲も良くなったんだって。そして、一生懸命働いて、世のために、まあ、兄弟一心一体となってつくしたという話で。そういうムルチグムイの話ですけどね。まあ、その程度で聞いていますけど。

話者情報	1919 (大正8) 年生まれ 男性
記録日	1982 年 9 月 26 日
分類	本格昔話